

あいちの山車文化の**魅力**が**凝縮**されたスペシャルな一日!!

あいちの山車まつりステージ

a 有松天満社 文嶺講 (名古屋市緑区) **b** 岡田二区中組山車まつり保存会 (知多市)

① 10:00~10:30

② 13:00~13:30

① 10:30~11:00

② 13:30~14:00

g 八幡社山車保存会 (名古屋市中川区) **h** 西寶車囃子保存会 (常滑市)

① 15:00~15:30

② 17:00~17:30

① 15:30~16:00

② 17:30~18:00

f 「あいちの山車まつりの魅力」

スペシャルトークショー

14:30~



あいち山車まつり日本一協議会広報大使
尾陽木偶師 九代玉屋庄兵衛氏

【プロフィール】

九代玉屋庄兵衛は、本名は高科庄次、1954年生まれ。25歳で七代目に弟子入り。1995年に玉屋庄兵衛を襲名。1998年江戸末期田中久重が製作した「弓曳童子」完全復元。2003年に日本の江戸からくりの代表作として、自身で製作した「茶運人形」を東京上野の国立科学博物館に寄贈。2005年7月、ロンドンの大英博物館に「茶運人形」を寄贈、大英博物館所蔵の『機匠図彙』とともに、日本文化常設館に展示されることとなりました。同年、『愛・地球博』において愛知県館モニュメントとして「唐子指南車」を制作。2011年11月のポルトガル、チェコなど欧州歴訪のように、各国への日本伝統文化ミッションとしてからくり人形の実演など海外での活動を行っています。名古屋市北区の自宅兼工房において各地の山車からくりの復元修復、創作からくりの製作を行っています。1996年より犬山市の犬山市文化史料館の別館「からくり展示館」に工房開設、毎週土曜日にからくり製作の実演を行っています。

2000年 第22回都市文化奨励賞受賞

2003年 名古屋市芸術賞、第23回伝統文化ポーラ賞受賞

2015年 厚生労働省「現代の名工」表彰



あいち山車まつり応援隊

プロフィギュアスケーター元オリンピック日本代表 鈴木明子さん

【プロフィール】

愛知県豊橋市出身。6歳からスケートを始め、体調を崩してスケートを離れた時期もあったが、2004年に見事復帰。そして2010年バンクーバーオリンピックで8位に入賞し、多くの感動を生んだ。持ち前の表現力と世界観で2011年GPファイナル銀メダル、2012年世界選手権銅メダル、現役最後の2013年全日本選手権では悲願の優勝を果たし、ソチへの切符を手にする。ソチオリンピックでは2大会連続となる8位入賞。現在は、プロフィギュアスケーターとしてアイスショー出演を軸に、テレビ出演や全国各地での講演活動を精力的に行っている。また2015年、本郷理華選手のSP「キダム」を振り付けする等、念願の振付師としてのキャリアをスタートさせた。

●著書

「プロのフィギュア観戦術」(PHP新書)

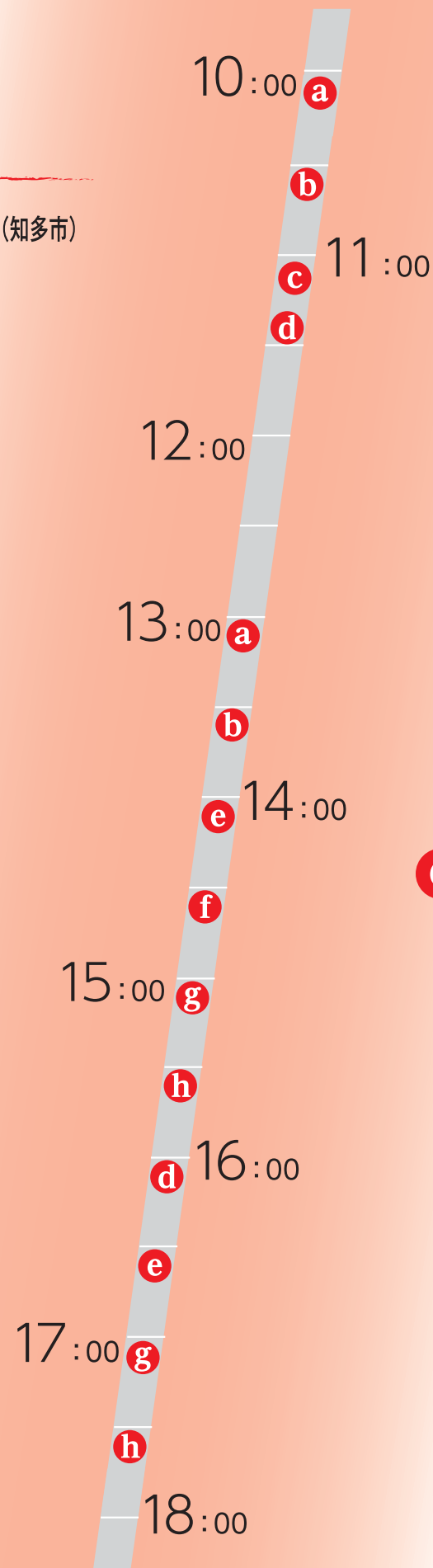
「等身大で生きる-スケートで学んだチャンスのつかみ方」(NHK出版)

「壁はきっと超えられる~夢をかなえる晩成力」(プレジデント社)

「ひとつひとつ、少しずつ。」(KADOKAWA)



まつり写真家
デン 真氏



あいち山車まつり日本一協議会

c 広報大使 九代玉屋庄兵衛氏任命式

11:00~11:20

d からくり人形ステージ

① 11:20~11:50

② 16:00~16:30

◆からくりステージ

九代玉屋庄兵衛氏製作のからくり人形「からす天狗」の上演。みどころは、山車の上にしつらえた高低まちまちの乱杭の上を高下駄をはいて渡る、尾張山車からくりの傑作として知られている「乱杭渡り」の場面。



からす天狗

e 知立山車文楽 特別公演

① 14:00~14:30

② 16:30~17:00



ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」

知立山車文楽保存会・山町人形連

演目: 寿式三番叟

(ことおきしきさんばそう)

◆知立山車文楽について

文楽は、江戸時代から伝わる伝統芸能で、浄瑠璃にあわせて三人で一つの人形を操る人形芝居です。文楽はいくつかの地域に伝承されていますが、山車の上で演じられるのは知立のみです。『中町祭礼帳』によると、知立で人形浄瑠璃が行われたのは江戸時代中期(1747)からであり、250余年の歴史があります。町内には多くのかしらと衣裳が保存されています。

【解説】

三番叟の始まりは能の『翁』からと伝えられています。神聖なものとして第一番目におかれ、神社の祭礼に奉納されてきた祝儀曲です。天下太平、五穀豊穡、家内安全を祈願するもので、物語は特にありません。三番叟は毎年正月には宮中で上演され、縁起のいいものとして、今でも、舞台では公演の無事と成功を祈願して行われます。また新築棟上げや落成式、結婚式など目出たい席で上演されることがあります。二人の三番叟が連れ舞い、鶴の舞、鶴亀の踊りがあつたり、鈴をもって種まきのしぐさがあつたりします。曲に合わせて、だんだん踊りも激しくなり、やがて、一人が舞い疲れて休もうとしますが、もう一方が引きとどめ「いっしょにおどろう」と最後まで舞い収める、ユーモアあふれる出し物です。